

田上山の水辺の生き物観察

2013年 TANAKAMI こども環境クラブ



2013年6月8日
トンボと水辺の生き物観察会

田上山の湿地

春 アカハライモリ
コサナエ

初夏 モリアオガエル
ハッチョウトンボ

夏 オニヤンマ
サギソウ
ミミカキグサ

秋 ネキトンボ

冬 池の水

季節の移り変わり…そして 生き物を育む大地

私たちが、観察してきた田上山の湿地を中心とした水辺の生き物を紹介します。



アカハライモリ



ジュンサイがありました



こんななんでもない場所に



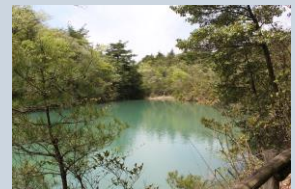
モウセンゴケ



モリアオガエル



山の道を通っていきます



ハッチョウトンボ

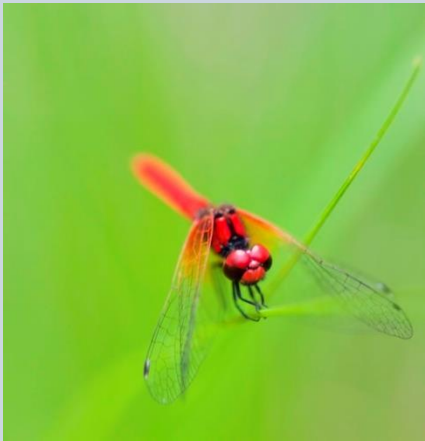
トンボ科ハッチョウトンボ属 *Nannophiya pygmaea*

ハッチョウトンボ属は、世界に4種一亜種が知られ、日本には最北進種が生息しています。腹長17~19mmと、一般のトンボと比べると極端に小さいのが特徴です。

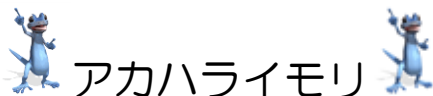
低地~山地の日当たりのよい、草丈の低い植物の生える湿地や、休耕田に生息し、近畿地方では、5~10月の生息の記録があります。

♂と♀では、色が違います。♂は、全身が、鮮やかな濃い赤色をしています。メスは、茶褐色をしています。

田上山のハッチョウトンボ



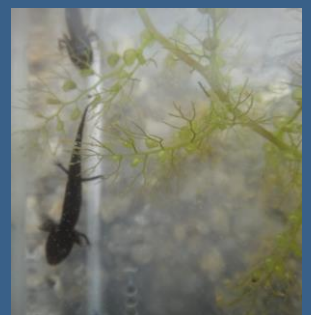
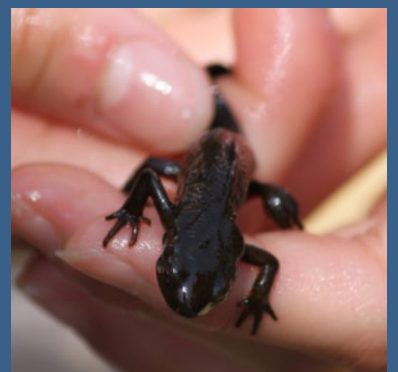
私たち、TANAKAMI こども環境クラブは、2009年から毎年田上山に登り、このハッチョウトンボを始め、多くの生き物を観察してきた。クラブで観察している場所は、滋賀県大津市と栗東市にまたがる田上山中の生息地である。現場は山頂上付近少し手前で、通路わきにある背後緩やかな斜面である。面積約5㎡(1.5坪程)の池を囲むように湿地がある。斜面より常に少量の水が湧き出して流れ込んでおり、花崗岩地質にモウセンゴケ、ミミカキグサ、シラタマホシクサなどの植物が生える湿地を形成している。ハッチョウトンボは、移動性が小さいため、この小さな湿地がなくなるとこの地域のハッチョウトンボは絶滅してしまう可能性が高い。毎年6月上旬ころよりオスの成虫を見かけるようになり、6月中旬よりメスの姿も多くみられるようになる。毎年この時期を逃さず観察に出かける。2013年は、春に雨が少なく、ハッチョウトンボのヤゴが多く見つかる小さな池の水を心配しながら観察に出かけてが、いつもの場所は、少なかったが、池の周りではなく、少し山頂に向かったところにある広場に多く観察できた。昨年よりメスの姿が少なく感じた。



アカハライモリ

アカハライモリの体は、全長は10cm前後で、2対4本の短い足と長い尾をもつ。皮膚がザラザラしている。背中茶褐色で、お腹は赤地に黒の斑点模様になっている。模様は個体差があり、簡単に見分けられるほどである。水田、池、川の流れのない淡水中に生息している。水辺の近くの林や、水気の多い枯れ草の下などに潜むこともある。幼生も成体も昆虫類、ミズ等の小動物を貪欲に捕食するらしい。他の両生類の卵や幼生の有力な捕食者ともなっており、モリアオガエルやアベサンショウウオなど、希少な両生類の生息地では厄介者とされる。

ハッチョウトンボがよく観察される小さな池、私たちはここを「トンボ池」と言っている。トンボ池の主は、このアカハライモリである。わずか5㎡にも満たない池の中になんかのアカハライモリが生息していると思われる。6月下旬に観察に来るとこの池の周りには、モリアオガエルの卵塊が樹上に見ることができる。ということはこの池にはモリアオガエルも生息していることになる。エサも豊富である。しかし毎年ではないが、長年モリアオガエルの卵塊を見ることができるということは、アカハライモリが食べ過ぎてモリアオガエルが絶滅したということはないようである。自然界の中においては、食う食われるの関係は、バランスよくできているのであろう。人為的に、自然的に生息する環境が全く変わってしまわない限り、食う食われるの関係をバランスよく維持していくのだろう。子どもたちと行くとこのアカハライモリは、大人気である。





2013年6月8日「トンボと水辺の生き物観察」

観察会のトピックス

- ① 水が少ない
- ② 変な色をしたメダカ 発見



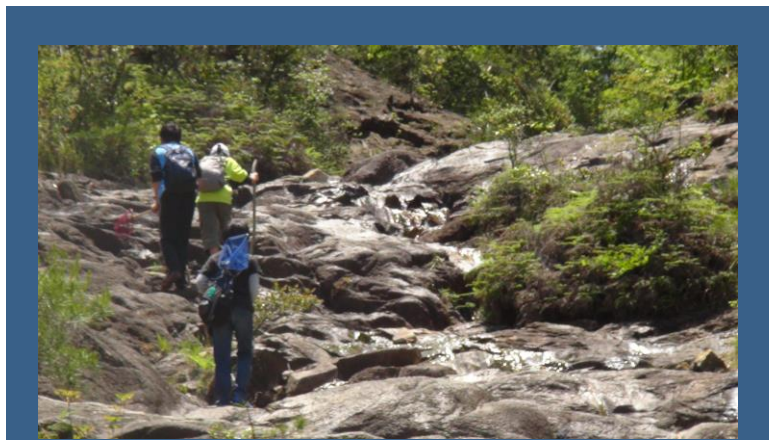
水が少ない！！1

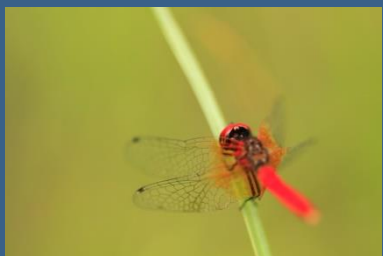
水辺の生き物にとってこの水の少ない状態は、危機的ではないかと感じてしまった。この観察会においての生物種は例年とほぼ変わりなく観察できた。しかしこの年の水に関する懸念はまた違った、というか反対の方向へもたらされた。秋からは雨量が多くなり、台風による豪雨がこの田上の地にも災害を起こした。花崗岩質で地盤の緩いこの山も土砂崩れなどが起きているのではないかと。休日に悪天候が多く、夏以降観察に行くことができなかった。2014年の生き物調査で確認したい。

変な色をしたメダカ 発見



山頂手前の広場で昼食をとった。普段は、小川のように水が流れているが、このときは全く水がなく花崗岩の砂があらあらしく引き詰められたようになっていた。端にある水たまりは残っている。じっと見つめていると稚魚が泳いでいる。色的には、メダカである。「ウツ・・・」と思いよく見てみた。メダカではない。いやいややはりメダカだ。色は、金と赤と白っぽい。なぜ色の違うメダカがこんな山の池に。この田上山は、湿地も多いが池も多くある。いちばん大きな池にはブラックバスも生息している。不思議な山である。





TANAKAMI こども環境クラブ
〒52-2276
大津市里 5-6-8